

一圍碁象戲シヤイウチ灑打扇切相撲以下於仕之者可致言上事  
〔正寶事錄〕覺

一町中ニ而碁將碁雙六當座之慰にも金銀之儀は不申及蠟燭一紙一錢之諸勝負かけ堅仕間敷候、

辰八月元承應

右は八月十三日御觸町中連判、

〔雍州府志七土産〕碁盤略〇中 倭俗爲碁雙陸之戲謂打、

〔壺囊抄〕碁ノ手ニ付テ、ウチカフ、ノゾクナド云、其字ハ何ゾ、左様ノ字、皆碁經ニアルベシ、取分テ

卅二字ノ難字アリ、

衝ウチカフ 綽シカヘ 約スラフ 飛トバ 關トカ 割ツムル 粘ツク 頂ツラ 尖スル 覷ノゾク 瞋ウツ 閑トムル 打キル 斷タチキル 行ノフル 立タチ 捺ウチハサム 聚イナル  
點ナカテ 跨マタガル 夾サシハサム 摺セムル 辟ウチテトル 勒カラム 撲ツク 征ツク 傍ツク 添ツク 壺ツク 靈ツク 抄ツク 持チ 殺コロス 鬆ミタル 槃タスク 等也

〔玄々碁經〕圍碁三十二字釋義

立 歷也、沿邊而下、子者曰立、恐彼子有往來相衝之患也、

行 行也、連子而下曰行、使有粘連不斷之緒也、

飛 走也、隔一路而斜走曰飛、有似禽鳥斜飛義也、

尖 儉也、兩路斜儉而下、子曰尖、使有覷之之意也、

粘 連也、彼欲以子斷之、我即以子連之、故曰粘、

幹 間也、謂以子間之曰幹、

綽 侵也、以我子斜侵彼子之路而欲出之曰綽、

約 攔也、以彼子斜攔我之頭而反閉之曰約、

手法